

第 24 回労働政策審議会 人材開発分科会（R3. 1. 25）資料

第11次職業能力開発基本計画(令和3年度～令和7年度)のたたき台(概要)

新型コロナウイルス感染症の影響によるデジタル技術の社会実装の進展や労働市場の不確実性の高まり、人生100年時代の到来による労働者の職業人生の長期化など、労働者を取り巻く環境が大きく変化していくことが予想される中で、労働環境の変化に応じて労働者が主体的に能力の向上やキャリアの形成に取り組み、それを企業や国・都道府県等が支援する人材育成戦略として、職業能力開発施策の基本的方向を定める。

今後の方向性

産業構造・社会環境の変化を踏まえた職業能力開発の推進

第四次産業革命などデジタル技術の進展を踏まえ、IT人材など時代のニーズに即した人材育成を強化するとともに、能力開発において新たな技術の活用を図る

労働者の自律的・主体的なキャリア形成の推進

労働市場の不確実性の高まりや職業人生の長期化・多様化を踏まえ、キャリアコンサルティングや学びの環境整備を通じて、労働者の自律的・主体的な能力の向上やキャリアの形成を支援する

労働市場インフラの強化

労働者の自律的・主体的なキャリア形成を支える基盤として、また、雇用のセーフティネットとして、公的職業訓練や職業能力の評価ツール等の充実を図る

全員参加型社会の実現に向けた職業能力開発の推進

誰もが活躍できる全員参加型社会の実現に向けて、個々の特性やニーズに応じた職業能力開発の機会を提供し、すべての労働者が少しずつでもキャリアアップできるよう支援を充実する

関連施策

- 教育訓練給付におけるIT分野の講座充実に向けた関係府省の連携、公的職業訓練におけるIT活用スキル・ITリテラシー等の訓練を組み込んだ訓練コースの設定の推進
 - オンラインによる公的職業訓練の普及、ものづくり分野の職業訓練におけるAR・VR技術等の新たな技術の導入に向けた検討
 - 企業・業界における人材育成の支援、中小企業等の生産性向上に向けたオーダーメイド型の支援の実施
- 企業へのセルフ・キャリアドックの導入支援、夜間・休日、オンラインを含めた労働者個人がキャリアコンサルティングを利用しやすい環境の整備、キャリアコンサルタントの専門性の向上や専門家とのネットワークづくりの促進
 - IT利活用等の企業横断的に求められる基礎的内容を中心とする動画の作成・公開、教育訓練給付制度の対象講座に関する情報へのアクセスの改善
 - 教育訓練休暇や教育訓練短時間勤務制度の普及促進、社内公募制などの労働者の自発性等を重視した配置制度の普及促進
- 地域訓練協議会等を通じた産業界や地域の訓練ニーズを反映した職業訓練の推進、産学官が連携した地域コンソーシアムの構築・活用促進
 - 技能検定制度・認定社内検定の推進、ホワイトカラー職種における職業能力診断ツールの開発、日本版O-NETとの連携
 - ジョブ・カードの活用促進
 - デジタル技術も活用した在職者・離職者、企業等への情報発信の強化
- 企業での非正規雇用労働者のキャリアコンサルティングや訓練の実施、求職者支援訓練の機会の確保
 - 育児等と両立しやすい短時間訓練コースの設定、訓練受講の際の託児支援サービスの提供の促進
 - 就業経験の少ない若者に対する日本版デュアルシステムや雇用型訓練の推進、地域若者サポートステーションにおけるニートや高校中退者等への支援の強化
 - 高齢期を見据えたキャリアの棚卸しの機会の確保、中小企業等の中高年労働者を対象とした訓練コースの提供
 - 障害者の特性やニーズに応じた訓練の実施、キャリア形成の支援
 - 就職氷河期世代、外国人労働者など就職等に特別な支援を要する方への支援

このほか、技能承継の促進、国際連携・協力の推進(技能評価システムの移転、技能実習制度の適正な実施)に係る施策を実施する。また、新型コロナウイルス感染症の影響等により新たな施策が必要な場合には、本計画の趣旨等を踏まえて機動的に対応する。

第 11 次職業能力開発基本計画（たたき台）

計画のねらい

近年、日本経済は緩やかな回復基調にあり、雇用情勢も着実に改善していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により戦後最大の経済の落ち込みが生じており、今後も、新型コロナウイルス感染症が雇用に与える影響により一層注意する必要がある。

中長期的にみると、我が国は少子高齢化による労働供給制約という課題を抱えている。こうした中、我が国が持続的な経済成長を実現していくためには、多様な人材が活躍できるような環境整備を進め、一人ひとりの労働生産性を高めていくことが必要不可欠であり、そのためには、資本への投資に加えて、デジタル化や職業能力開発への投資を推進していくことが重要である。

職業能力開発施策を巡る状況を見ると、産業構造のサービス経済化、第 4 次産業革命（I o T、センシング、ビッグデータ、A I、ロボット等）に伴う技術革新等が進展しており、新型コロナウイルス感染症の影響の下で、社会全体のデジタルトランスフォーメーション（以下「DX」という。）の加速化が促進されるものとみられる。

また、人生 100 年時代を迎え、労働者の職業人生が長期化し、働き方もこれまで以上に多様化し、労働者が生涯を通じて学び続ける必要性が高まっている。あわせて、新卒一括採用や長期雇用等に特徴付けられる日本型の雇用慣行も徐々に変化している。

こうした経済社会環境の変化を的確に把握するとともに、それに伴う人材ニーズや働き方の変化に機動的に対応する職業能力開発施策が求められる。

また、我が国の経済成長の大部分が地域経済の成長に支えられていることを踏まえ、都会から地方への新たな人の流れをつくるなど、地域経済のさらなる活性化を図ることが我が国全体の成長にとっても重要となる。

職業能力開発施策の展開に当たっては、企業における労使の職業能力開発の取組を基本として、経済社会動向の変化を踏まえつつ、事業主及び労働者の努力を支援するための施策の強化を図るとともに、国や都道府県に加えて、企業、民間教育訓練機関、学校などの地域のアクターを有機的に結びつけ、職業能力開発施策を一体的に実施していくことが重要である。

第 10 次職業能力開発基本計画では、人々が能力を高め、その能力を存分に発揮できる全員参加の社会と人材の最適配置を同時に実現することによって、我が国の経済を量の拡大と質の向上の双方の観点から成長させる「生産性向上に向けた人材育成戦略」と当該計画を位置付け、それに基づいて各施策を推進してきたところで

ある。こうした取組については、引き続き重要である一方、グローバル化による競争激化のほか、新型コロナウイルス感染症の影響によるデジタル技術の社会実装の進展等による労働需要の構造変化の加速化、人生 100 年時代の到来による労働者の職業人生の長期化など、労働者を取り巻く環境が大きく変化していくことが予想される中で、労働環境の変化に応じて労働者が主体的に能力の向上やキャリアの形成に取り組み、それを企業や国・都道府県等が支援することによって、一人ひとりの希望するライフスタイルの実現を図ることが重要である。

以上のような観点から、労働者に求められる能力の急速な変化と職業人生の長期化・多様化が同時に進行する中で、労働者の継続的な学びと自律的・主体的なキャリアの形成を支援する人材育成戦略として本計画を位置付け、職業能力開発施策を実施していく。なお、新型コロナウイルス感染症の影響を含め、経済社会情勢の変化等に伴って、本計画の対象期間中に新たな施策が必要となる場合は、本計画の趣旨等を踏まえて機動的に対応するものとする。

本計画の対象期間は、令和 3 年度から令和 7 年度までの 5 年間とする。

職業能力開発の方向性と基本的施策

1 産業構造・社会環境の変化を踏まえた職業能力開発の推進

(1) IT 人材育成の強化

近年、IoT、センシング、ビッグデータ、AI、ロボットなど第 4 次産業革命に伴う技術革新が進展しており、IT 等のデジタル技術を活用した課題解決、業務効率化や他の業務領域との協力・連携を行える人材の育成を推進していく必要がある。

また、社会全体のDXが加速化しており、あらゆる産業分野におけるデジタル利活用人材のニーズの高まりを見据えて、全ての働く方々に必要とされるITリテラシーの付与を推進する必要がある。

これらのIT人材の育成に当たっては、十分に裾野を広げる観点から、無料のコンテンツの活用やサブスクリプションによるサービス提供など、ITに関する学びのハードルを低くする工夫が重要である。

なお、テレワークへの対応を含め、必要とされる能力の急速な変化に対応できる企業・個人とそうでない企業・個人に二極化する可能性がある点に留意しながら施策を検討していく必要がある。

【施策】

- 労働者の主体的な職業能力開発を支援するため、教育訓練給付制度において、関係省庁とも連携しつつ、IT分野についても講座の充実に努める。
- 企業内におけるIT人材の育成を促進するため、高度IT人材の育成に

係る訓練を実施した場合に、人材開発支援助成金において訓練経費をより高率で助成する。

- 中小企業等の在職者に対して、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構（以下「高障求機構」という。）において、民間を活用し、ITの活用による生産性の向上に向けた訓練の提供を推進する。
- 離職者のITスキルの向上を促進するため、公的職業訓練（委託訓練及び求職者支援訓練）において、IT活用スキルや基礎的なITリテラシー等の習得に資する訓練を組み込んだ訓練コースの設定を推進する。
- ものづくり分野におけるIoTやロボット等の第4次産業革命に関連する技術の習得に向けた職業訓練プログラムの開発・実施を推進する。

（2）ITや新たな技術を活用した職業訓練等の推進

近年、教育分野においてEdTech（教育におけるAI、ビッグデータ等の様々な新しいテクノロジーを活用したあらゆる取組）が進展しており、一人ひとりの能力や適性に応じて個別最適化された学びの実現に向けた取り組みが進められている。職業能力開発分野においても、受け手の利便性や職業能力開発の効果を高める観点から、国や企業等は、通信環境の変化も踏まえつつ、新しい技術を積極的に取り入れながら職業訓練や企業内研修を進めていく必要がある。

【施策】

- 新型コロナウイルス感染症の影響の下での「新たな日常」への対応の一環として、2020年5月より、公共職業訓練の全ての課程において、同時双方向型によるオンライン訓練の実施を可能としたところであるが、オンライン訓練の実施状況や訓練効果等を把握・分析した上で、更なる活用を推進する方策を検討する。
- また、訓練内容の高度化や訓練実施の効率化を図るため、高障求機構が行うものづくり分野の職業訓練における新たなICT技術（AR・VR技術を活用した訓練、受講管理システム等）の導入に向けて、訓練手法の開発・検証等を進める。
- 在職者をはじめとする労働者が身近に、必要な時にキャリアコンサルティングを受けることができる環境を整備するために、オンラインを活用したキャリアコンサルティングを推進する。

（3）企業・業界における人材育成の強化

経済環境の変化により、企業は大規模な事業構造・業態変革を迫られており、長期雇用システムの変容やその中での非正規雇用労働者の増加等の実態がある中で、人材育成の方向性を明確化し、これに沿った継続的な取組を行うことが困難になる等の制約が生じている。こうした状況の変化によって、企業の人材育成投

資がより限定的になっていくことが懸念される中、我が国の人材育成においては引き続き企業の役割が大きく、労働者の実践的な職業能力開発を図る上で、計画的なOJTやOFF-JTを受けられる機会が確保されることが重要である。

【施策】

- 個々の企業・業界のニーズに即した人材育成のため、人材開発支援助成金により訓練経費等を助成し、企業内又は業界単位での職業訓練の実施を促進する。
- 民間の活力を活かした人材育成を行うため、認定職業訓練制度により訓練に取り組む事業主等を支援する。
- 全国87カ所のポリテクセンター等に設置した「生産性向上人材育成支援センター」において、中小企業等を対象に、企業の人材育成に関する相談支援、課題に合わせた人材育成プランの提案を行うとともに、ポリテクセンター等におけるものづくり分野の在職者訓練及び個々の企業のニーズに応じたオーダーメイド型を中心とする生産性向上支援訓練を実施する。
- そのほか、中小企業等への支援として、職業訓練指導員の個々の企業への派遣や、ポリテクセンター等の施設や設備の貸出しを行う。

2 労働者の自律的・主体的なキャリア形成支援

(1) キャリアコンサルティングの推進

日本型の雇用慣行が徐々に変化するとともに、急速なデジタル化の進展や労働市場の不確実性の高まり、人生100年時代の到来による労働者の職業人生の長期化等により、求められる能力も変化していく。このため、労働者は、日々の業務を通じて職業能力の向上を図るとともに、企業任せにせず、若年のうちから自身の職業能力開発の必要性を継続的に意識しながら、時代のニーズに即したリスクリングやスキルアップを図っていく必要があり、定期的に自身の能力開発の目標や身に付けるべき知識・能力・スキルを確認する機会を整備することが重要である。

【施策】

- キャリア形成サポートセンターの整備などを通じて、企業へのセルフ・キャリアドックの導入支援や、労働者個人がジョブ・カードを活用したキャリアコンサルティングを利用しやすい環境の整備（夜間・休日、オンラインを含む。）を更に推進する。
- キャリアコンサルティングの推進に当たっては、産業界・企業における理解が不可欠であり、その理解を促す取組を推進する。
- ジョブ・カードは、キャリアコンサルティングの過程で有効活用できるツールであり、デジタル技術の進展を踏まえ、利便性の向上を図るととも

に、企業が従業員に対して行うキャリア支援の場面（キャリアコンサルティングやキャリア研修など）における活用を促すなど、更なる普及を推進する。

- キャリアコンサルタントについて、国家資格化後、量の確保と資質の維持・向上を進めてきたが、加えて、今後は労働力需給調整の場面や職業訓練の場面における支援等の活動領域（今後新たに拡大する活動領域も含む。）に応じた専門性を深めるなど実践力の向上に向けた取組を推進する。
- キャリアコンサルタントに寄せられる相談内容の複雑化・高度化に対応するため、必要な知識・技能を身に付ける機会を確保するとともに、専門家や専門機関に関する情報提供や講習の実施等により、産業医や保健師等近接領域の専門家や専門機関へリファーする知識・能力の習得や専門家等とのネットワーク作りを促進する。
- 場所を問わずキャリアコンサルティングの機会を提供できるようオンラインを活用したキャリアコンサルティングを推進する。

（２）自律的・主体的な学びの支援

また、労働者自身が自らの職業能力開発・キャリア形成に責任を持ち、意欲を持って学び続けるためには、キャリアプランの明確化に加えて、学びに関するコンテンツの充実や情報へのアクセスの改善、学びのための費用や時間の確保、学びによる職業能力の向上を通じて主体的にキャリアを形成できるキャリアパスの整備など幅広い観点からの環境整備を国、都道府県、企業等が連携して進めていく必要がある。その際、労働者の主体的なキャリア形成と企業における職業能力評価・人事労務管理が密接な関わりを持つことについての企業の理解が不可欠であることに留意が必要である。

【施策】

- 労働者の自発的な学び直しのハードルを下げる観点から、関係府省と連携して、IT利活用等の企業横断的に求められる基礎的な内容を中心に動画を作成、公開し、オンラインで無料で学べる環境を整備する。
- 労働者の主体的な職業能力開発を支援するため、関係省庁とも連携しつつ、教育訓練給付対象講座の充実に努めるとともに、教育訓練給付の対象講座に関する情報が得やすくなるよう、学び直しに関するポータルサイトと連携する等、情報へのアクセスの改善に取り組む。
- 在職者が自発的な学び直しのための時間を確保できるよう、新たに教育訓練休暇を導入・適用する企業に対して、人材開発支援助成金により経費等を助成すること等により、教育訓練休暇や教育訓練短時間勤務制度の普及を促進する。
- 労働者が実務経験を通じた主体的な能力の向上や学び直しの意欲の維

持・向上が可能となるよう、社内公募制の導入その他の労働者の自発性、適性及び能力を重視した的確な配置及び処遇上の配慮が可能となる制度の普及促進を図る。

3 労働市場インフラの強化

中長期的な日本型雇用慣行の変化の可能性や、労働者が自らキャリアを選択していくプロセスが拡大することを視野に、雇用のセーフティネットとしての公的職業訓練や、労働者の職業能力の証明や評価のツールなど、労働市場インフラの更なる整備を進め、労働者一人ひとりが転職や再就職も含めた希望するライフスタイルの実現を図ることが求められる。

(1) 中長期の人材ニーズを踏まえた人材育成戦略

我が国の労働力人口は今後急速に減少していくことが見込まれる中、我が国の産業・職業構造の変化を中長期で見据え、将来的に必要な人材ニーズを把握することが必要である。

(2) 産業界や地域のニーズを踏まえた公的職業訓練等の実施

現在、公的職業訓練については、国（実施主体は高障求機構）は、都道府県や民間教育訓練機関の主体では的確かつ確実な実施が困難なものづくり分野等の職業訓練をスケールメリットを活かし実施すること、都道府県は、地域の産業における人材ニーズに応じた職業訓練を実施すること、民間教育訓練機関は、介護分野や情報通信分野などの職業訓練を実施することといった役割分担の下に実施しているが、デジタル化の進展など産業構造の変化、非正規雇用労働者の増加の中で、雇用のセーフティネットとして、離職者等がそれぞれのニーズ・状況に応じて多様な訓練機会を得られるようにするとともに、中小企業等による労働者の人材育成を支援するため、公的職業訓練を適切に実施する必要がある。

また、国はプレイヤーとして自ら公共職業訓練を提供するだけでなく、コーディネーターとして、他の機関が提供する職業訓練との調整や連携を強化していくことが求められる。

【施策】

イ 人材ニーズに応じた公的職業訓練の推進

- ・ 成長分野や人手不足分野をはじめとして産業界や地域の訓練ニーズを反映した職業訓練を推進するために、中央訓練協議会及び地域訓練協議会等を通じて、関係者の意見を聞いた上で、公的職業訓練の実施に関する総合的な計画を国レベル及び地方レベルで策定するとともに、訓練実施に係る PDCA を推進する。
- ・ 特に医療・福祉分野について、ハローワーク、訓練実施機関及び福祉機

関等の連携により、離職者への医療・福祉分野への再就職支援を推進する。

- ・ I T分野について、離職者や中小企業等の労働者に対し、I T利活用人材向け（I T活用スキルや基礎的なI Tリテラシー等）を中心とした職業訓練を推進する。また、製造業等ものづくり分野においてI o Tやロボット等の第4次産業革命に関連する技術の習得に向けた職業訓練を推進する。
 - ・ I C Tや新たな技術を活用した職業訓練として、オンラインによる公的職業訓練の一層の普及を図るため、オンライン訓練の実施状況や訓練効果等を把握・分析した上で、更なる活用方策を検討する。また、訓練内容の高度化や訓練実施の効率化を図るため、高障求機構が行うものづくり分野の職業訓練における新たなI C T技術（AR・VR技術を活用した訓練、受講管理システム等）の導入に向けて、訓練手法の開発・検証等を進める。
 - ・ また、都道府県が中心となり、地域レベルで産官学が連携した地域コンソーシアムを構築し、より就職可能性を高める離職者向け職業訓練コース（委託訓練）を開発し、検証する事業について、実施コース数の制限の要件緩和や実施事例の共有により、更なる活用を図る。
 - ・ このほか、地域単位での工科系教育機関と職業能力開発大学校（又は職業能力開発短期大学校）の学生交流協定等を通じて、教育分野のEdTechと職業訓練分野のデジタル化の相乗効果による技術革新に対応した質の高い人材の供給を推進する。
- ロ 雇用のセーフティネットとしての離職者向け訓練の実施
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響等による雇用情勢の動向を踏まえ、離職者に対し、再就職に必要な公的職業訓練の機会を確保するとともに、地域の求人・求職ニーズを踏まえて安定した就職につながる訓練コースの設定に努める。
 - ・ 求職者支援訓練について、高障求機構において、都道府県労働局とも連携の上、必要な訓練実施機関の開拓を行う。また、高障求機構において作成し、ホームページ上で公表している訓練実施機関向けのモデルカリキュラムについて、人材ニーズに応じた必要な見直しを行うことを通じて、訓練内容の質的向上に努める。
 - ・ 個々人の職業生活設計に沿った職業の選択に資するよう訓練受講前から訓練期間中を通じて的確なキャリアコンサルティングを実施する。
- ハ 中小企業等に対する人材育成の支援
- ・ 全国87カ所のポリテクセンター等に設置した「生産性向上人材育成支援センター」において、中小企業等を対象に、企業の人材育成に関する相談支援、課題に合わせた人材育成プランの提案を行うとともに、ポリテクセンター等におけるものづくり分野の在職者訓練及び個々の企業のニー

ズに応じたオーダーメイド型を中心とする生産性向上支援訓練を実施する。

- ・ 都道府県における地域の産業や企業のニーズなど地域の実情に応じた在職者訓練の実施を促進する。

ニ 職業訓練指導員の育成確保

- ・ 将来にわたり訓練指導員を安定的・継続的に育成確保するため、職業能力開発総合大学校を中心に、多様なカリキュラムを設定し、多様な経歴の人材に対して、それぞれが有する知識・技能・経験等に応じた指導員訓練を実施する。特に、I o T、センシング、ビッグデータ、A I、ロボットなど第4次産業革命に伴う技術革新の進展に対応するため、最先端の学識・技術・技能を有し、研究的思考をもって職業訓練指導技法等を開発できる訓練指導員を養成する。
- ・ 地域の人材ニーズに対応した職業訓練を的確に実施できるよう、指導員養成訓練の訓練課程の見直しを進めるとともに、テクノインストラクター総合情報サイトの運用等を通じ、若年層から熟練層まで幅広い層に対して職業訓練指導員の魅力を訴求し、職業訓練指導員の確保を図る。

ホ 職業訓練サービスの質の確保・向上

- ・ 民間教育訓練機関の行う職業訓練サービスの質の確保・向上については、民間教育訓練機関自身がまずは取り組むべき課題であるが、国は職業訓練サービスガイドラインの認知度向上を図るとともに、職業訓練サービスガイドラインに関し、民間教育訓練機関が職業訓練サービスの質の確保・向上に取り組みやすくなるよう、公的職業訓練受託時の研修受講の要件や研修内容の見直しによる研修効果の向上等の方策を検討する。

(3) 技能検定・職業能力評価や日本版 O-NET の推進

技能検定などの職業能力評価制度や職業情報提供サイト（日本版 O-NET）については、それぞれの職業に必要な能力の把握や能力の客観的な評価に活用できるものであり、労働者のキャリア開発の目標設定・動機付けとして機能することにより、労働者の主体的な能力の向上にも資するものである。

これらの更なる整備を進めるとともに、労働者・企業において十分に活用されるよう、企業をはじめとした社会の認知度の向上に取り組み、有用性・利便性の向上に向け、関連サービスと連携するなど、普及促進を図る必要がある。

【施策】

イ 技能検定の活用促進

- ・ 技能検定制度については、企業内（内部労働市場）における人員配置・昇級・昇格などの処遇での活用に加えて、外部労働市場での活用が進むことが労働市場インフラとして求められている。

そのために、技能検定制度が産業界の人材ニーズに適合したものとなるよう職種・作業の新設・統廃合や等級・試験基準等の不断の見直しを推進する。

また、学生や若年層のキャリア形成に対するモチベーション向上や円滑なキャリアアップに資するよう、技能検定を受検しやすい環境を整えるとともに、学校教育等との連携を通じた若者等に対する技能検定の積極的な活用を促進する。

外国人技能実習生向け技能検定試験の受検申請の増加については、技能検定を行う都道府県等に対して、集合的な試験実施等、試験の効率化な実施に向けた技術的助言等を行う。

ロ 認定社内検定の推進

- ・ 労働者の自発的な職業能力開発を推進するためには、技能検定などの業界内共通の検定に加えて、企業単位の社内検定の推進が必要である。特に、業界内共通の検定と関連性を持つ実践的な社内検定を推進していくことが重要である。

そうした観点から、社内検定認定制度の社会的な認識を高めるとともに、認定社内検定の構築方法についても見直しを図り、計画的な制度の実施に努める。

ハ 職業能力評価基準の整備・活用促進

- ・ 労働者が自らキャリアを形成し、転職や再就職も含めた希望するライフスタイルの実現を図るためには、自身の職業能力の客観的な評価が得られる労働市場インフラの整備を進めていくことが重要である。

このため、業界団体等との連携の下、職業ごとにレベルに応じて業界内で共通して必要とされる職業能力を整理した職業能力評価基準を整備し、企業の実情に応じた活用を促してきたところ、今後は、技術の進展も踏まえた見直しや、活用事例の幅広い周知など、さらなる普及促進に取り組むことにより、労働者の主体的なキャリア形成にもつなげていく。

ホワイトカラー職種については、いわゆる「資格」による職業能力の診断が難しいことから、求められる職務遂行能力を分析し、労働者個人の職業能力と各職種で求められる能力を比較して診断結果を表示することにより、キャリアコンサルティング等でも活用できる職業能力診断ツールの開発を進め、職業情報の「見える化」を進める日本版 O-NET との連携を図る。

また、外国人労働者の増加に対応して、企業のニーズを踏まえた日本語能力評価ツールを開発し、各企業が活用できる「ひな形」として提供するとともに、その普及・活用を促進することにより、職場における受入環境の整備を図る。

(4) ジョブ・カードの活用促進

ジョブ・カードについては、労働者個人にとって、生涯を通じて活用するキャリア・プランニング及び職業能力証明のツールとして有効であるとともに、企業にとっても、個人の職業能力の見える化や人材育成、社員のモチベーション向上、定着等組織の活性化に役立つツールであり、更に普及を進めていくことが必要である。

【施策】

- ジョブ・カードについて、引き続き個人（学生・求職者・在職者）及び企業や学校等に幅広く周知し、キャリアコンサルティング等の個人に対する相談支援ツールとして、求職活動、職業能力開発などの場面においてより一層積極的に活用を促進する。
- ジョブ・カードの周知及び活用促進に当たっては、関係省庁や都道府県労働局、都道府県、キャリア形成サポートセンター、訓練実施機関等の関係機関が連携して取り組む。
- さらに、長期にわたるキャリア形成の促進のため、新たにジョブ・カードをオンラインで登録・更新できるウェブサイトの構築及びマイナポータルとの連携など、ジョブ・カードのデジタル化を推進する。

(5) 職業能力開発政策に関する情報発信の強化

労働者の職業能力開発に向けた政策に関する情報が、それぞれの政策の対象となる在職者・離職者等や企業、業界等にしっかりと伝わるように、デジタル技術も活用しながら、情報発信を強化していく必要がある。

【施策】

- これまで、公的職業訓練の愛称（ハロートレーニング）・ロゴマークを決定するなど周知・広報に注力してきたところであるが、今後もそれぞれの政策の対象の特性等を踏まえた広報資料を作成するなど、必要な情報を分かりやすく発信するよう努める。
- また、特に在職中の学び直しを後押しするため、キャリアコンサルティングや教育訓練給付制度等の在職者向けの情報発信を強化する。
- 個々の労働者・企業、業界、地域等における積極的な取組につなげるため、従業員のキャリア形成支援について優れた取組を行う企業等を表彰し、積極的に広報するなど、人材育成に関する好事例を周知する。

4 全員参加型社会の実現に向けた職業能力開発の推進

一人ひとりの希望や能力や価値観等に応じた多様な働き方の選択ができ、誰もが活躍できる全員参加型社会の実現のため、すべての者が少しずつであってもリスク

リングやスキルアップしていくことが重要であり、そのための支援策を講ずる必要がある。

(1) 非正規雇用労働者の職業能力開発

企業内における能力開発の機会に恵まれにくい非正規雇用労働者に対して、引き続き、企業が主体となった人材育成を促進することが必要である。また、キャリアアップを目指す非正規雇用労働者においては、その主体的な職業能力開発も重要である。

【施策】

- 非正規雇用労働者が企業内でキャリアアップできるよう、企業内におけるキャリアコンサルティングの実施とともに、キャリアパスの整備や企業内における訓練の実施、計画的な配置を通じた職業能力の向上を促進する。
- 企業内における訓練の実施に関しては、有期契約労働者等が正規雇用労働者等に転換等することを目的とした訓練の実施を推進するため、人材開発支援助成金による訓練経費等の助成により支援するとともに、周知広報により助成金の活用促進を図る。
- 非正規雇用労働者等が働きながら訓練を受講しやすいよう、短時間の訓練コースの設定を推進する。
- 離職を余儀なくされた非正規雇用労働者等の安定した就職を促進するため、求職者支援訓練等の受講枠を確保し、企業外における職業能力開発を推進する。

(2) 女性の職業能力開発

経済社会の活性化に向けて、職業能力開発施策においても、女性の活躍の推進に向けた取組が重要であり、女性の多様な課題、ニーズを捉えたきめ細やかな対策を講ずる必要がある。女性の就業率のM字カーブは改善してきているが、就業率という量的側面だけではなく、育児や出産等により一旦離職した後に非正規雇用労働者となる場合や、離職せずに継続就業した場合であってもキャリアアップの機会が制約される傾向もあることから、雇用の質の面にも焦点を当てていくべきである。

【施策】

- マザーズハローワーク等において、子育て中の女性や母子家庭の母等で早期の就職を希望する者等に対し、個々の希望や状況等に応じて、仕事と子育ての両立、長期の職業上のブランク、長期的なキャリアの視点に配慮したキャリアコンサルティングを実施し、積極的な職業能力開発機会の提供を推進する。

- 公的職業訓練において、介護分野や医療分野、IT分野など女性が活躍している分野での訓練コースを設定するほか、子育て中の女性が受講しやすいよう、託児サービス付きの訓練コースや短時間の訓練コースの設定を推進する。

(3) 若者の職業能力開発

若者一人一人が主体的に長期的なキャリア形成を図る中で、その能力を発揮し、次代を担うべき存在として社会で活躍できるよう、一人一人の状況に応じたきめ細かな就職支援やキャリアアップに向けた職業能力開発を進めることが必要である。

【施策】

- イ 学校卒業見込者等の在学段階からのキャリア教育を通じた職業意識等の醸成
 - ・ 初等中等教育を含む学校段階から多様な職業について理解を深め、就業前段階で適切な職業意識を持つことが、その後の職業人生に重要であることから、学校等関係機関と連携し、児童・生徒等への職場体験等の支援とともに、ものづくり体験や技能講習会、「ものづくりマイスター」による実技指導等の実施を推進する。
- ロ キャリアコンサルティング機会を確保する等若者の職業人生を通じたキャリア形成支援
 - ・ 若者のキャリア形成を支援するため、セルフ・キャリアドックやオンラインを活用したキャリアコンサルティングの推進などによりキャリアコンサルティングの機会を確保する。
 - ・ 学校生活から就労への円滑な移行のために、キャリア教育を行う専門人材の養成が求められていることから、キャリア教育に資するキャリアコンサルタントを養成する。
- ハ 公共職業訓練等による若者向けの職業訓練の推進
 - ・ 実践的な職業能力の開発及び向上を図るために効果的な日本版デュアルシステム、認定実習併用職業訓練（雇用型訓練）等により、若者の人材育成を推進する。
 - ・ 加えて、学卒者向けの公共職業訓練について、更なる就職率の向上に向けて取組の充実を図る。
- ニ ニート、高校中退者等の支援
 - ・ ニート等の若者について、将来生活困窮に陥るリスクを未然に防止し、経済的に自立させ、地域社会の支え手とするため、地域若者サポートステーションにおいて、地方自治体と協働した職業的自立に向けた専門的相談等の支援を行うとともに、学校等の関係機関との連携による切れ目ない支

援の強化を行う。

- ・ また、公的職業訓練や地域若者サポートステーションにつながりづらい高校中退者等の対象者の潜在的な支援ニーズを掘り起こすため、関係機関の緊密なネットワークの下での更なる周知等を行う。

(4) 中高年齢者の職業能力開発

人生 100 年時代の到来を踏まえ、これまで様々な就業や社会参加の形態も含めた 70 歳までの就業機会を確保する制度の創設などに取り組んできており、中高年齢者の強みを発揮できるよう職業能力の蓄積を図るとともに、キャリア転換を希望する中高年の職業能力開発を推進することが必要である。

【施策】

- 中高年齢者に対して、高齢期を見据えて、それまでに培った知識・経験の棚卸しや今後の課題の明確化を行いつつ、キャリアプランの再設計を考えるキャリアコンサルティングの機会を提供する。あわせて、中高年齢者等のキャリアコンサルティングにおける職業能力診断ツールの活用を検討する。また、中高年のキャリア形成を支援するため、セルフ・キャリアドックによる若年期からの継続的なキャリアコンサルティングの機会を確保する。
- 事業主等が中高年齢者である労働者に対する訓練を実施した場合に、人材開発支援助成金により訓練経費等を助成することにより、中高年齢者の更なるスキルアップを推進する。
- 65 歳超の高齢者の継続雇用の実現に向けて、生産性向上支援訓練の一環として、中高年労働者が身につけておくべき能力の習得に資する訓練コースを提供する。

また、概ね 60 歳以上の高齢求職者を対象にした離職者訓練プログラムの研究開発を高障求機構とともに実施し、開発したモデルカリキュラム等をもとに都道府県の委託訓練として普及を促進する。

これらの職業訓練の実施に当たっては、スキル・知識の複合化を行っていく視点や多様なキャリアパスの可能性を見据えた内容を盛り込む。

(5) 障害者の職業能力開発

ハローワークにおける精神障害者等の求職者数が増加を続けている中で、就職の実現に向けて、障害者の障害特性やニーズに応じた環境の整備が必要であるとともに、人生 100 年時代の到来による職業人生の長期化を踏まえ、今後は障害者についても雇入れ後のキャリア形成支援を進めていく必要がある。

【施策】

- 一般の公共職業能力開発施設（以下「一般校」という。）で受入れが困難な重度障害者を受け入れる障害者職業能力開発校での職業訓練、障害者の多様なニーズに対応した委託訓練を引き続き推進していくとともに、在職障害者に対する職業訓練に係る企業ニーズ等の把握・分析をした上で、訓練内容を含めた方向性等の検討を実施する。
- また、一般校においては、施設のバリアフリー化の推進や精神保健福祉士等の専門家の配置等により、障害者が入校しやすい環境を整備し、障害者の職業訓練機会の拡充を図る。
- 加えて、訓練実施主体である都道府県、高障求機構、都道府県労働局及びハローワークが中心となって、地域における雇用、福祉、教育、医療・保健及び経済団体等関係機関との連携・協力体制の推進、強化を図る。
- 全国障害者技能競技大会（アビリンピック）を実施し、障害者一人ひとりの職業能力の向上を図るとともに、企業や社会一般の人々の障害者に対する理解と認識を深め、障害者雇用の促進につなげていく。

（6）就職やキャリアアップに特別な支援を要する方への支援

就職氷河期世代の抱える問題は、労働市場の構造変化が顕在化してきた中で労働市場に参入してきた最初の世代が抱える問題であり、長期的・継続的な支援を行うことが必要である。

また、外国人労働者など、就業に関して特別の支援を必要とする労働者について、その特性に応じた支援を行っていく必要がある。

【施策】

- 就職氷河期世代の方々のうち、不安定な就労状態にある方に対しては、短期資格等習得コース事業の推進、職業訓練受講給付金、求職者支援訓練、人材開発支援助成金（特別育成訓練コース）等により支援していく。
- また、長期にわたり無業の状態にある方に対しては、地域若者サポートステーションにおける相談支援等により、長期的・継続的な支援を行っていく。

5 技能継承の促進

労働者の優れた技能は、これまで我が国経済社会の発展に大きな役割を果たしてきたところであり、我が国が持続的な経済成長を続けるためには、高度な技能労働者の育成が不可欠である。他方で、建設業、製造業等において技能をもつ労働者の不足が問題となっており、引き続き、若年層の技能への関心を高め、技能人材の育成を進めていく必要がある。

【施策】

- 「ものづくりマイスター」による技能伝承や、多くの人々が気軽に参加できる技能体験イベントなど地域における技能振興の取組等を通じて、若者のものづくり分野への積極的な誘導を推進する。また、ものづくり分野などの高度な熟練技能者の技能を効果的に継承していくため、新たな機器や機材への対応も含め、デジタル技術を活用した技能継承の取組の普及を図る。
- また、卓越した技能者の表彰や技能五輪国際大会等の技能競技大会の実施を通じた、学校段階も含む若年者に対する「技能」の重要性・魅力の発信の取組を推進するとともに、技能五輪全国大会について、技能五輪国際大会の動向及び産業界等のニーズを踏まえ運営改善の検討を行う。さらに、技能士について、より社会の認知度を高め、社会的な評価や価値を高められるような取組を推進する。
- 加えて、技能五輪国際大会については、幅広い産業分野の技能人材が世界レベルの技能競技に挑戦し、また、子どもを含む多くの国民がこうした競技に触れることにより、今後の技能人材の育成や地位の向上に資するよう、出場選手の競技力向上に向けた取組や選手出場のための支援の充実を図るなど、取組を一層推進していく。

6 職業能力開発分野の国際連携・協力の推進

経済のグローバル化が進展し、我が国の企業の海外進出等が活発化する中で、グローバル人材の活用・育成が重要となっている。その一方、国際社会の一員として国際協力を推進することの重要性はますます高まっている。これまでも我が国は、自らの経験や知見、教訓及び技術を活かし、開発途上地域等が自立的発展を実現するための根幹となる人づくりについて、技術協力や人材の育成・確保のためのシステム作り等の「質の高い成長」に向けた支援を実施してきたところであり、引き続き、効果的・効率的に推進していく必要がある。

【施策】

- このため、開発途上国における技能労働者の育成を行うために、技能検定等の技能評価システムの開発途上国への移転を図る「技能評価システム移転促進事業」について、我が国の強みであるものづくり分野や中小企業が持つノウハウを最大限活用しながら推進し、日本型技能評価システムである技能検定の国際的な普及を進めるとともに、国際水準の技能競技大会の開催ノウハウを移転する。
- また、外国人の技能実習については、技能実習法に基づき、引き続き、技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護を図っていく。